

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(1) 原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 歴史と資料</p> <p>遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本文化の黎明と古代国家の形成</p> <p>旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代を経て、我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化、天平文化に着目して、古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。その際、考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 ・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ・律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ・律令に基づく国内統治体制について理解する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ・文献資料を基に、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民制の崩れなど土地制度の変容を関連づけて考察する。 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 	

学習指導要領	都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>ウ 古代国家の推移と社会の変化 東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽^{ほしうが}について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ・蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察する。 ・真言宗・天台宗などに着目して、唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解する。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ・藤原北家が権力を掌握していく過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を考察する。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 ・国際関係の変化や遣唐使の廃止を踏まえ、浄土教の出現による信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化を理解する。 ・律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ・地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や経済・社会・文化を理解する。

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(2) 中世の日本と東アジア</p> <p>中世の日本と東アジア</p> <p>ア 歴史の解釈</p> <p>歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。</p> <p>イ 中世国家の形成</p> <p>武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p> <p>ウ 中世社会の展開</p> <p>日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ・蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて理解する。 ・建武の新政を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名などに着目して室町幕府の機構の確立について理解する。 ・応仁の乱を機に下剋上の風潮が生まれて幕府が動揺する中、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力となりえるまで成長して行ったことを理解する。 ・諸産業の発達による庶民の台頭、東アジアとの交流などを踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 	

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(3) 近世の日本と世界</p>	<p>近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 歴史の説明 歴史的事象には複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道立てて考えを説明させる。</p> <p>イ 近世国家の形成 ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。</p> <p>ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容 幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱以降下剋上の風潮を背景にして各地に登場した戦国大名について、各地域の地理的条件と関連づけて理解する。 ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義について理解する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立を政治・経済・社会面など、多面的・多角的に理解する。 ・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて理解する。 ・水上交通が整備されたことで、全国的にさらに広がりを見せた商業によって商人たちの経済活動がどのように発展したのか考察する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ・農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解できたか。 ・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革・田沼時代・寛政の改革を中心にその諸政策について考察する。

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(4) 近代 日本 の 形 成 と 世 界</p>	<p>近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 明治維新と立憲体制の成立</p> <p>開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、地方からの視点を踏まえて理解する。 ・日本が開国するまでのプロセスを理解し、外国からの影響と国内政治の影響について理解している。 ・日本が諸外国と締結した「日米和親条約」・「日露和親条約」・「日米修好通商条約」の中身について理解し、原史料からその内容を読み取ることができる。 ・諸外国との貿易のために開港した結果、日本経済はどのような影響を受けたかについて具体的に説明することが出来る。 ・幕府が経済の立て直しのために行った政策の目的とその結果を理解する。 ・幕府が滅亡するまでの国内政治の混乱の様子を理解する。 ・新政府の樹立の際に公布された「五箇条の誓文」・「五榜の掲示」の中身について理解し、原史料からその内容を読み取ることができる。 ・新政府の行った廃藩置県・四民平等・地租改正・軍事・殖産興業などの政策について理解し、原史料から読み取ったり、具体的に国民の生活がどのように変化したか説明することができる。 ・文明開化によって新しく日本に導入された欧米風の文化・思想などについて理解する

学習指導要領	都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、我が国の立憲国家としての展開について考察させる。</p> <p>ウ 近代産業の発展と近代文化 国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充に着目して、近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治初期の日本政府要人たちの外遊の目的を理解し、政策と結びつけることができる。 ・新制度の導入や新しい政治体制に関われなかった人々の不満がどのような出来事を引き起こしたか理解する。 ・「大日本帝国憲法」の内容を理解し、原史料からその内容を読み取ることができる。また、現行の「日本国憲法」と比較し、その違いについて考察する。 ・明治民法・商法など諸法典の編纂の意義とその後の影響について考察できる。 ・日本が幕末に締結した不平等条約について、何が不平等なのか理解し、その後の日本が改正までどのようにして諸外国と話し合いを重ねたかについて理解する。 ・日清戦争と三国干渉について理解し、講和条約等について原史料からその内容を読み取ることが出来る。また、その後の日本の国際的な立場について考察することが出来る。 ・日露戦争前後の日本の国内政治の状況について理解する。 ・欧米列強・日本の中国進出の意義と実際の中国分割の様子を理解する。 ・日露戦争とその講和条約について原史料からその内容を読み取ることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命の様子について軽工業の発展と重工業の発展の2期に分かれて進展したことを理解する。 ・日本の産業革命が進行する裏で、当時の日本社会が抱えていた諸問題について理解し、その原因を考察することが出来る。 ・明治文化について今まで学習してきた内容を元にどのような意義があったのか考察することが出来る。

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(5) 両世界大戦期の日本と世界</p>	<p>近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。</p> <p>ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目して、政党政治の発展、大衆社会の特色とその成立の背景について考察させる。</p> <p>イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。</p> <p>ウ 第二次世界大戦と日本 国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動の意義とその内容について理解し、その進展が人々の言動に与えた影響について理解する。 ・日本社会で起きた普通選挙法を求める運動を様々な社会運動について意義を理解する。 ・人々が権利を勝ち取った一方、政府が課した新たな法律が人々に与える影響について考察することが出来る。 ・第一次世界大戦の開戦の理由を理解し、日本の果たした役割を理解する。 ・第一次世界大戦後の世界の情勢を理解し、人々がどのような世界の構築を目指そうとしていたか理解する。 ・第一次世界大戦後の世界の経済状況を考察し、日本の経済への影響を考察できる。 ・日本の中国進出の推移について理解し、その意義を考察する。 ・日本の金融政策が世界恐慌などの外国からの影響でどのように変容したか理解できる。 ・日本の協調外交の様子と、国内の軍部の台頭の様子とを結び付けて考察し、その後の日本社会に与えた影響について理解する。 ・日本国内の政治の変容が国際社会にどのような影響を及ぼしたのかについて考察する。 ・第二次世界大戦の概要を理解し、日本が外国に与えた影響と、日本国内での人々の生活にどのような影響があったのか理解できる。

学習指導要領		都立板橋有徳高校 学カスタンダード
<p>(6) 現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会 占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>ウ 歴史の論述 社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の世界秩序の変容に着目し、人々の生活がどのように変容したのか理解できる。 ・占領政策の概要を理解し、日本の戦後処理がどのように進んだのか、それが現在の社会に与えた影響にはどのような問題があったのかについて考察できる。 ・55年体制の成立や安保条約の制定・改定が日本社会に与えた影響について考察する。 ・特需景気に端を発する経済復興と日本経済の高度成長の原因とその過程について考察することが出来る。 ・高度経済成長に伴った、人々の生活への影響について理解し、現代の社会とのかかわりについて考察する。 ・バブル経済とその崩壊後の日本社会の変容や経済政策について理解することが出来る。 ・複数のテーマの中から1つを選択し、史料や文献の活用・インタビューなどを通して、そのテーマについて理解を深め、それについて叙述することが出来る。 	